

項目	内容
名称	チエストツリー、イタリアニンジンボク、セイヨウニンジンボク [英]Chaste tree、Monk's pepper tree、Indian spice、hemp tree、sage tree、wild pepper [学名]Vitex agnus-castus L.
概要	チエストツリーは南ヨーロッパ、アジア西部原産の落葉低木で、木全体に香気をもつ。種子、果実はコショウの代用、香料として利用されてきた。
法規・制度	<p>■ 食薬区分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全草：「医薬品的効能効果を標ぼうしない限り医薬品と判断しない成分本質 (原材料)」に該当する。
成分の特性・品質	
主な成分・性質	・精油 (pinen、 cineol、 limonenなど)、フラボノイド類、イリドイド配糖体、ジテルペンなどを含む (102)。
分析法	-
有効性	
ヒトでの 循環器・呼吸器	調べた文献の中に見当たらない。
の 消化系・肝臓	調べた文献の中に見当たらない。

評価	糖尿病・ 内分泌	調べた文献の中に見当たらない。
	生殖・泌尿器	<p>メタ分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2016年1月までを対象に10のデータベースで検索できた無作為化比較試験14報について検討したメタ分析において、月経前症候群または月経前不快気分障害の女性によるチェストツリーの摂取は、月経前症候群の症状（8報）、抑うつ（5報）、不安（2報）の軽減との関連は認められたが、いずれも試験によるばらつきが大きかった (PMID:28237870)。 <p>RCT</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月経前症候群の女性128名（試験群62名、平均30.77±4.37歳、イラン）を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、チェストツリー抽出物を40滴/日、月経6日前から月経までの間、6月経周期摂取させたところ、頭痛、落ち込み、胸部の張りなどの症状の自己評価（VAS）の軽減が認められた (PMID:22359078)。 ・月経前症候群の女性170名（試験群86人、平均37±8.4歳、ドイツ）を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、チェストツリーの果実エキス剤20 mg/日を3月経周期間摂取させたところ、月経前症候群の10段階自己評価において6項目中5項目で改善が認められたが、1項目（膨満感など）に影響は認められなかった (PMID:11159568)。 ・健康な女性29名（試験群15名、平均39.1±6.8歳、日本）を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、ハーブティー（チェストツリー果実、トウツルキンバイ、ハゴロモグサ、アンゼリカ、ラズベリー葉、ウイキョウなどを含む）250 mL×2回/日を12週間摂取させたところ、症状判定の17項目中2項目（月経前の食欲不振、便秘）に改善が認められたが、血清ホルモン濃度や血液検査値に影響は認められなかった（2018145806）。 ・更年期症状のある女性351名（試験群76名、平均52.2±2.5歳、アメリカ）を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、マルチ植物サプリメント（ブラックコホシユ200 mg、アルファルファ400 mg、チェストツリー200 mg、ザクロ400 mg、トウキ400 mg、Chamaelirium luteum 200 mg、リコリス200 mg、オーツ400 mg、シベリアニンジン400 mg /日を含む）を1年間摂取させたところ、膣症状、月経周期、ホルモン状態に影響は認められなかった (PMID:18257142)。 ・更年期症状のある閉経後の女性100名（試験群50名、平均51.9±4.3歳、オーストラリア）を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、セントジョーンズワート900 mg/日とチェストツリー1,000 mg/日を16週間摂取させたところ、ホットフラッシュやその他の更年期症状、QOLに影響は認められなかった (PMID:18791483)。
	脳・神経・ 感覚器	調べた文献の中に見当たらない。
	免疫・がん・ 炎症	調べた文献の中に見当たらない。
	骨・筋肉	調べた文献の中に見当たらない。
	発育・成長	調べた文献の中に見当たらない。
	肥満	調べた文献の中に見当たらない。
	その他	調べた文献の中に見当たらない。

参考文献

- (22) メディカルハーブ安全性ハンドブック 第2版 東京堂出版 林真一郎ら 監訳
(58) The Complete German Commission E Monographs
[\(PMID:11159568\) BMJ. 2001; 322:134-7.](#)
[\(PMID:10523716\) Oncol Rep. 1999; 6\(6\):1383-7.](#)
[\(PMID:12520164\) Biol Pharm Bull. 2003; 26\(1\):10-8.](#)
[\(PMID:11975496\) J Nat Prod. 2002; 65\(4\):537-41.](#)
(30) 「医薬品の範囲に関する基準」(別添1、別添2、一部改正について)
[\(PMID:18257142\) Menopause. 2008; 15\(1\):51-8.](#)
[\(PMID:18791483\) Menopause. 2009; 16\(1\):156-63.](#)
[\(PMID:22359078\) Acta Med Iran. 2012; 50\(2\):101-6.](#)
[\(PMID:28237870\) Am J Obstet Gynecol. 2017; 217\(2\):150-166.](#)
[\(PMID:17298863\) Eur J Obstet Gynecol Reprod Biol. 2008; 137\(2\):257-8.](#)
(34) 有用植物和・英・学名便覧 北海道大学図書刊行会 由田宏一
(101)健康・機能性食品の基原植物事典 中央法規
(2018145806) 先端医療と健康美容. 2017;4(1):22-35.
[\(PMID:7989506\) Hum Reprod. 1994; 9\(8\):1469-70.](#)
[\(PMID:21213356\) Phytother Res. 2011 Jul;25\(7\):983-9.](#)
(102) Qtrly Rev Natural Med. 1994;2:111-21.